

の	初	れ	と	よ		證	に	る	の		ば	る			小				令
と	期	て	あ	る	近	は	石	淡	序	奈	、	最		概	澤	解			和
大	の	ゐ	り	百	江	な	上	海	文	良	天	古	要	の	説				二
き	勅	る	、	十	朝	い	宅	三	を	時	平	の		意					年
く	撰	。	現	六	か	。	嗣	船	持	代	勝	日		見					八
異	三	作	存	首	ら		、	と	っ	、	寶	本		や					月
る	詩	品	す	の	奈		藤	考	。	天	三	漢		註					課
。	集	の	る	詩	良		原	へ	編	平	年	詩		釋					題
五	が	ほ	寫	を	朝		刷	る	者	勝	十	集		は					資
言	七	と	本	收	ま		雄	説	は	寶	一	。		※					料
が	言	ん	は	め	で		等	が	大	三	月	撰		で					
ほ	詩	ど	原	る	の		が	有	友	年	に	者		記					
と	で	は	本	が	六		擬	力	皇	(完	不		し					
ん	占	五	と	、	十		さ	で	子	七	成	明		た					
ど	め	言	異		四		れ	あ	の	百	。	の		。					
で	ら	詩	る	序	人		て	る	會	五		序							
あ	れ	で	と	文	の		ゐ	、	孫	十		文							
り	て	、	想	に	作		る	ま	に	一		に							
、	ゐ	平	像	は	者		が	た	あ	年		よ							
七	る	安	さ	百	に		確	他	た	(れ							
				廿)			す						

	律師大唐學生道慈師、二首	唐學士辨正法師、二首	↓ 弘文天皇の皇子	正四位上式部卿葛野王、二首	僧正吳學生智藏師、二首	大津皇子、四首 ↓ 天武天皇の皇子	↓ 天智天皇の皇子	淨大参河島皇子、一	↓ 天智天皇の皇子	淡海朝皇太子（大友皇子、弘文天皇）二首	が付加へられてゐる。	以下の八名については、特に撰者からの傳記	伝記つき	詩人	「藻」集であることがわかる。	る大詩人たちこの遺「風」を「懐」かしむ詞	哲遺風、故以懐風名之云爾」とあり、先行す	序文の最後に「餘撰此文意者、爲將不忘先	書名の由来
--	--------------	------------	-----------	---------------	-------------	-------------------	-----------	-----------	-----------	---------------------	------------	----------------------	------	----	----------------	----------------------	----------------------	---------------------	-------

來		（			表	で	仕	の	不			能	器			つ	局		
け	神	あ	わ		舞	處	掛	政	幸	天		く	宇	皇		。	量	皇	
む	風	か	が		台	斷	け	情	を	武		文	峻	子	大	津	弘	子	河
君	の	と	背	大	か	さ	た	不	呼	天	背	を	遠	は	津	の	雅	は	島
あ	伊	き	子	伯	ら	れ	策	穩	ぶ	皇	景	屬	。	、	皇	逆	。	、	皇
ら	勢	）	を	皇	姿	る	謀	な	引	崩		る	幼	淨	子	を	始	淡	子
な	の	露	大	女	を	と	に	中	き	御		。	年	御		謀	め	海	
く	國	に	和	の	消	、	か	で	金	が		（	し	原	に	る	大	帝	
に	に	わ	に	歌	し	大	か	、	と	、		中	て	帝	及	に	津	の	
	も	が	遣		た	伯	り	天	な	大		略	學	の	び	及	皇	第	
	あ	立	る		。	皇	、	武	つ	津		）	を	長	て	び	子	二	
	ら	ち	と			女	大	の	た	皇		因	好	子	て	、	と	子	
	ま	濡	さ			も	津	皇	天	子		り	み	な	島	莫	、	な	
	し	れ	夜			齋	皇	后	武	を		て	、	り	則	逆	の	り	
	を	し	ふ			宮	子	・	天	含		逆	博	。	ち	の	志		
			け			を	が	持	皇	め		謀	覽	淨	變	契	懷		
	な		て			解	謀	統	病	た		を	に	貌	を	温	裕		
	に					か	反	天	歿	姉		進	し	魁	告	裕	、		
	し		曉			れ	の	皇	後	弟		む	て	梧	ぐ				
	か					、	罪	が		の		。		、					

